



みんなのSDGsの紹介!

6月号で募集した「みんなのSDGs」。ご応募いただいた中から、日本福祉大学の学生と市内の企業や団体にインタビューに行ってきました。身近で取り組まれているSDGsを知って、みんなでSDGsに取り組んでいきましょう♪

石塚硝子グループ (石塚硝子株、日本パリンソン株)



インタビュアー：
日本福祉大学4年 坂本実穂さん



環境の変化にも果敢に挑戦し、事業を成長させることで、持続可能な社会に貢献する企業

石塚硝子グループは、ガラスだけでなく、紙容器、ペットボトルでも環境に配慮した商品を開発し、また、コロナ禍において注目を集めている抗菌剤の開発も行っているそうです。

その中で、リサイクルされた100%再生ペットボトルは、海洋プラスチックゴミの削減や地球温暖化防止対策として重要な資源の有効活用ともいえます。これはSDGs目標12「つくる責任つかう責任」に貢献しています。私たちもペットボトルを綺麗に洗い、キッチンと分別することが求められています。

今回のお話を聞き、私たちの毎日の生活がSDGsと深く関わっていることを改めて感じました。SDGsと聞くと難しいと思う人もいるでしょう。しかし、ペットボトルを綺麗に洗ってリサイクルするなど、日常生活を見直すことが、私たちがSDGsに関わる大切な第一歩です。私もペットボトルをリサイクルする際はラベルを外し洗って出すなど、自分の生活を見直していきたいです。



▲インタビューの様子

いわくら・ユニバーサルデザイン研究会



インタビュアー：
日本福祉大学4年 内藤美希さん



講座やキャンペーンを行いユニバーサルデザインの考え方を普及する団体

いわくら・ユニバーサルデザイン研究会は、市内小中学校の授業時間を用いて、ユニバーサルデザインの文房具を紹介したり市内探検をすることで、道路や建物内の設備の使いやすさを考えたり、災害弱者の立場になって問題を考える講座を行われています。

それ以外にも「車いすテニス体験会」や「車いす駐車場に停めないキャンペーン」なども開催し、多様な人のことを思いやる心(心のユニバーサルデザイン)の大切さを伝えています。これらの取り組みはSDGs目標4「質の高い教育をみんなに」と目標11「住み続けられるまちづくりを」に繋がっています。

普段利用している場所にもユニバーサルデザインの考え方が取り入れられており、多様な人が利用しやすくなっていることを知りました。大型商業施設にはユニバーサルデザインのものが溢れているそうです。

お互いのことを思いやる気持ちを大切に行動することで、全ての人が暮らしやすいまちに繋がっていくのだと感じました。



いわくら・ユニバーサルデザイン研究会
大野代志子さん

●問合先 秘書企画課企画政策グループ (☎ 38-5805)